



令和元年6月28日発行 中等新報第13号
新潟県立村上中等教育学校長 吉井 裕也

3年英語指導体験 ～ 教えるのって難しい ～



朝日みどり小学校の児童に英語の楽しさを伝える3年1組の生徒たち。歌や踊りやゲームを取り入れ、小学生の関心を惹きつけます。(6/25)

6月25日(火)、26日(水)の2日間、3年生が村上市立朝日みどり小学校を訪問し、児童たちに英語を学ぶ楽しさを伝える活動を行いました。1日目は1組、2日目は2組でした。事前に何度か学校でリハーサルを行い、本番に臨んだのですが、当日は今までになくうまくいったグループが多かったようです。イラストを使った問いかけやゲーム形式の英会話が始まると、各教室から児童の笑い声や歓声が沸き上がります。最初は戸惑いを見せていた児童も、当校生徒の熱心な働きかけと寄り添うような声がけに、どんどん打ち解けていきました。

当日の感想 一校長室でのインタビュー(6/27)に答えてー

1組 石塚泰明さん

- ジェスチャーをして見せたとき、頑なに「自分はしない」と意思表示する子がいて、ちょっと困りました。そんなとき、グループの仲間がフォローしてくれて、本当に助かりました。ゲームをやったら、皆喜んでくれて、心を開いてくれたように感じました。この活動を終えて、日々の授業が、先生たちの苦勞の上に成り立っているんだなあと思えました。後輩たちにも、ぜひこの経験を味わってほしいと思います。

2組 天井渚紗さん

- 児童が本当に素直で、中には「わかんない」「おもしろくない」と口にする子もいて大変でした。児童の気持ちになって一緒に笑ったり、アドリブを交えて何とか切り抜けられました。自分から積極的に声を出してみても、それが伝わったとき、やりがいを感じました。直接私に声をかけてくれる子もいて、「かわいいな」と思いました。1時間でもこんなに疲れるのに、毎日6時間も指導している小学校の先生はすごいと思いました。

2日目は、3年2組のチャレンジです。工夫を凝らした働きかけに、児童たちの歓声が応えます。(6/26)

